

中部ブロック会報 第25号

平成22年度中部ブロック研究会 【1日目】 2011年1月8日(土) 【2日目】 2011年1月9日(日)
開催地：富山国際会議場 〒930-0084 富山市大手町1番2号

【平成22年度・中部ブロック研究会を終えて】 ブロックリーダー 岡野 絹枝



平成 23 年1月8日・9日、富山国際会議場において、今年度ブロック研究会が開催されました。富山短期大学の実行委員諸氏の入念な準備の下に、会員等 41 名、プレゼンテーション・コンテスト出場学生 10 名(8組)の計 51 名という参加者が冬風情の富山に集いました。それに引率の先生や応援の学生達も加わり、大勢で賑わう初日を迎えました。

研究報告では、ブロック助成共同研究 1 件を含め8件の発表と質疑応答が活発に行われました。また、“学生プレゼンテーション・コンテスト”では、今年6年目を迎えただけでなく、30 周年記念全国大会の予選となるため過去最多の 10 名の学生が出場しました。懇親会では、富山名物披露のサプライズ企画まであり、大変有意義でしかも何とも楽しい研究会となりました。中部ブロックの活気ある研究会は、歴代ブロックリーダーのお陰である

ことは言うまでもありませんが、今回は、元リーダーの先生お二方が駆けつけてくださり、会が一層盛り上がりました。そして、総会においては、次期リーダーが決まり、私は、次の世代への橋渡し役としての務めを果たすことができました。

さて、ビジネス実務教育を中心とした高等教育は、今、岐路に立っていると言っても過言ではありません。昨年5月に文部科学省は、それぞれの高等教育機関の「機能別分化」と「養成する人材像の明確化」を打ち出しました。大学、短期大学、高等専門学校、専門学校、それぞれの教育機関における教育使命を明確化したのです。特に、短期大学に対しては、「実学を重視する短期大学教育においては、資格などの取得に必要な知識・技能の修得のみならず、教養教育の上に立ち、理論的背景を持った分析的・批判的見地を備えた専門知識・技能を目指すことが求められる。」と補足しています。学習者中心の授業改革や、ビジネス分野の研究などによって、実学的な知識・技能の修得に留まらず、学生達が分析力、考察力、それらを表現できる発信力などを育成するための研究機関こそ、当ビジネス実務学会であると認識を新たにします次第です。

終わりに、今回の研究会事務局をお引き受けいただいた大崎先生はじめ富山短期大学の諸先生方のご尽力に深く感謝申しあげると共に、2年間かけがえのない仲間としてお付き合いくださった運営委員の皆様にお礼を申し上げます。

【学生プレゼンテーション・コンテスト】



最優秀賞：金安 真奈さん(金城大学短期大学部)

優秀賞：杉本 里奈さん(富山短期大学)、長森 里依子さん(富山短期大学)、野坂 志織さん(愛知学泉短期大学)

努力賞：国本 唯さん(岡崎女子短期大学)、土井 由紀子さん(岡崎女子短期大学)、西 友里恵さん・佐々木 彩さん・古川 麻美さん(金沢学院短期大学)、田川 みくるさん(金城大学短期大学部)

5 大学、8 名が参加する学生プレゼンテーションコンテストが終了しました。今回は 6 月の日本ビジネス実務学会全国大会で企画されている学生プレゼンテーションコンテストに出場する代表者を決めなければならない初めてのローカルコンテストで、審査する側としてもとても頭を痛めました。審査員の頭を悩ませたことは、全国大会で勝てる代表者の選出でした。第 1 回目の栄えある全国コンテストで我が中部地区の代表が最優秀賞を取ること・・・なんと名誉なことでしょう。そんな人材を選ぶことに頭を悩ます選考でした。

学生たちは非常に質の高い練習をしてきたのでしょう。人によってはパワーポイントの自動プレゼンテーション機能を使っていた人も居り、リハーサルで作られたスライドの切り替わるタイミングにプレゼンターの肉声が絶妙のタイミングで発せられ素晴らしいでした。

また別の人は、手動で切り換えるスライドのタイミングや発声のタイミングが素晴らしかったり、姿勢の良さやスライドを指し示す手の動きが素晴らしかったり、作成しているスライド自体が素晴らしかったりと加算要素が多く、甲乙つけがたい本当に僅差の得点差での勝敗でした。しかし、「私は最優秀賞！」と驕ることなく全国大会では挑戦者として今回以上に仕上げて頑張ってください。

(佐久間 潔・修文大学短期大学部)

【懇親会】



私は今年度から中部ブロックの会員となり、初めて参加させていただき、全国大会を思わせるような盛会さに大変驚きました。

冬の富山での開催、氷見の寒がりや地酒に会話が弾みました。金田先生のご人脈により、拝見できました越中おわら節にのせたおわら踊りに心奪われ、教えていただいて踊ることもできました。

今回は岡野先生がブロックリーダーご退任ということもあり、元ブロックリーダー島名先生のご参加や中村健壽先生の知人ぞ知る伝説の芸も披露されました。この懇親会で会員相互の親睦は勿論のこと、富山という地を色々な角度から堪能し、本当に有意義なひと時を過ごすことができました。これも準備に携わってくださった先生方のお心遣いと人と人の繋がりのおかげだと思います。

私も次期委員として、今まで先生方が築いてこられたきめ細かな心配りのある素敵で中部ブロックの発展に力を注いで参りたいと思っています。

(中村 則子・名古屋学芸大学短期大学部)

【開催校から】

このたび、中部ブロック研究会をはじめて富山で開催することになり、その研究会を富山短期大学が主幹校として担当させていただき大変光栄に存しております。

私どもが本研究会を引き受けるに際して、最も懸念したことは降雪であり、そのため大雪でも皆様が来場しやすく、かつLRT（路面電車）など交通の便も良い富山市中心部に位置し、各種学会開催の実績を多数有する富山国際会議場を会場といたしました。幸いにも研究会は、2日間とも好天に恵まれ、多くの会員の参加を得ることができ、盛会のうちに終了することができました。

懇親会では、遠路富山にお出でいただいた会員の皆様の歓迎の意味を含め、また富山の風土を感じていただきたく、「氷見の寒ブリ」、富山の銘酒や、富山を代表する民謡の「おわら」の演奏などを準備させていただきました。さらに中村健壽先生の余興なども熱気にあふれ、懇親会に参加された皆様が喜ばれて帰られたことを何より嬉しく思っております。

本学の実行委員スタッフは、学会運営の経験が少なく手探り状態のこともあり、研究会の運営や懇親会では何かとご迷惑をおかけし、また至らない点もあったかと存じます。

しかし、ご参加いただいた会員の皆様の温かいご協力の下に、研究会を無事に開催できましたことを御礼申し上げ、開催校挨拶に代えさせていただきます。

(大崎 佑一 富山短期大学)

【For 2011 ～これからのご案内～】

「2011年全国大会」は、第30回記念大会です。第1号通信がすでに送られました。ぜひご予定にお入れください。

1

〈日 時〉2011年6月4日(土) 10:00～6月5日(日) 12:30

〈会 場〉大手前大学 さくら夙川キャンパス

〈テーマ〉「ビジネス実務研究の現状と課題—学習者中心のビジネス実務教育をめざして—」

「ブロック助成共同研究」について、2件募集します。

2

助成金は1件 50,000 円。グループ応募でも、個人でテーマを応募して共同研究者を募る方法でも結構です。奮ってご応募ください。(・応募先: okano@kinjo.ac.jp・締切: 4月末)

「2011 ブロック研究会」の開催予定です。来年度の研究計画にお入れください。

3

〈日 程〉2012年1月7日(土)・8日(日)

〈会 場〉岡崎女子短期大学(予定)

【編集後記】

日課のNHK 天気予報、富山確認をしながら、不安の面持ちで富山駅のホームを降りた私は目を疑いました。「雪がない…」。

開催校富山短大の先生に「もうこれは奇跡」との言われしほど、あらためて中部ブロック会員の雪雲を溶かすほどの熱意の高さには驚かされました(この熱意が奇跡を起こしたことはその後の豪雪ニュースで一目瞭然であります)。そんな熱いメンバーが集う中部ブロックの次期リーダーに、岡野先生から引き継ぎ、不肖私めが指名され、選出されたことに、「雪なし」以上に驚いておりますが他でもなく本人であります。ご下命されたうへは、役員の皆様のお力添えを頂戴し、「楽しく、役にたつ」学会発展に貢献できるよう努めてまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

(米本 倉基 岡崎女子短期大学)

中部ブロック研究会助成研究報告「起業意識を高めるビジネス実務教育」

川口 直子（愛知学泉短期大学）、水口 美知子（名古屋経済大学短期大学部）、河野 篤（中部学院大学）、
平田 祐子（高田短期大学）、寺島 雅隆（愛知学泉短期大学）



起業意識は、起業家精神を鑑みる上において、被雇用者においても必要な意識となりつつある。アンケート調査による統計結果により、起業意識を高めるためには、組織学習を組み込むことと、実社会におけるビジネスパーソンに接することが有意であることが明らかとなった。

本発表においては、その要素を組み込んだ具体的な授業事例を紹介した。そのような授業は、授業担当者の意欲と工夫次第では、学生にとってより効果の高い授業となる可能性が高い。さらに、ビジネス実務教育として、その要素を組み込んだシラバスを提案した。

今後、学科内の教員や授業の連携を推進し、全体としてよりよいカリキュラムを実施することを行っていききたい。時代の変化に対応した人材を育成するためには、ビジネス実務教育そのものが変化をする必要性があると考えます。

本研究は、中部ブロックの助成を受けており、多くの方々のご協力に対し、感謝申し上げます。最後に、河野篤先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

研究発表「カルテ・ディクテーションにおける必要技能調査 - 米国病院視察による事例調査から -」

米本 倉基（岡崎女子短期大学）



本発表は、カルテ代行記入秘書の職務と必要な能力等について、先行する米国ハワイ州に所在する3病院の事例現地訪問調査の報告である。調査によって、米国におけるカルテ代行記入は、医師の音声録音をまとめて文字化代行するトランスクリベリスト、専用の用語と書式を具えた自動音声文字化変換ソフトの導入、診察室内で医師診療行為を直接目視し、カルテ端末にリアルタイムで文字入力するトランスクリバラーによって行われ、特に最後のライブ型のトランスクリバラーは、ドクターが音声録音する作業負担もなく、その場ですぐに記載事項も確認できるメリットもあって、医師のニーズも極めて高く、我が国でも専門職としてさらに活発に養成すべき職種と考えられ、

調査で入手できた米国の職務要件書等と日本の先行事例を分析し養成教育プログラムの策定を目指したい。

研究発表「本学における簿記教育上の問題把握と仮説検証」

河合 晋（岡崎女子短期大学）



本研究は、学生が簿記を学ぶ上での障害は何か、どのようにして簿記が嫌いになるか、簿記のどこが難しいのかという点について、現状の問題把握と仮説検証を実施したものである。

学生は入学当初において、簿記会計に対し学習意欲が高い。就職対策として資格取得への意欲もあり、日商簿記検定は重視している。しかし、その途中で学習意欲が失せ、簿記会計に挫折してしまう学生が少なからず存在する。

こうした現状認識を踏まえ、本学を中心とした学生に対しアンケート調査を実施し、統計ソフトを用いて簿記会計への好き嫌いを諸要因によって判別分析し、何を乗り越えれば簿記学習が好きになるのか特定することを試みた。その上で、現状の簿記会計教育に改善の余地があるのかを検証した。

その結果、学生の簿記嫌いの最大の要因は「仕訳」にあり、「コンピュータ会計」で簿記に慣れさせることが、簿記学習への再チャレンジとなりうる点等が分かった。

研究発表「プレゼンテーションツールとしてのISO32000-1の活用について」

町田 由徳（岡崎女子短期大学）



プレゼンテーション用のソフトウェアとして、Microsoft社のPowerPointが圧倒的なシェアを占め、教育現場やビジネス実務の現場においても幅広く使用されているが、本研究ではPowerPointをプレゼンテーション用ソフトウェアとして使用する際に生じる様々な問題点を明らかにし、それに代えて、2008年に国際標準化機構によって認証された電子文書形式である、「ISO 32000-1」をプレゼンテーション用のドキュメントとして使用する事を提起し比較、検証を行った。

研究を通じて、制作したドキュメントの再現性、互換性の高さや、導入に関わるコストの低さといった点で、ISO 3200-1形式は優位に立っているが、制作したスライドを改変する際の柔軟性や、特殊効果の付与などの点について、課題を有している事が明らかとなった。今後はこうした点を踏まえて、より利便性の高いプレゼンテーション手法の研究を進めたい。

研究発表「コース別インターンシップによる就業力育成」 (平成22年度大学生の就業力育成支援事業で目指すもの)

水口 美知子 (名古屋経済大学短期大学部)



過去3年間の現代GP(社会人基礎力の育成)の取り組みで、アセスメントによりある程度の成果が確認できた。また、平成22年12月実施の「仕事の意識とキャリアの明確さ」に関するアンケート調査では、学生の仕事に対する意欲が入学時よりも上がったこと、キャリアが一層明確になったことが分かった。この要因として、インターンシップ、キャリアデザイン論、既存の実務家を招いた科目などが上位に挙がった。今回の就業力育成プログラムでは、多様な価値観を持つ学生、就業意識が希薄な学生をいかに積極的就職活動に導き、長く仕事に定着させるかを課題とした。具体的な方法としては、以下の3つである。①各コースに即した実務家の科目を新規に配して、それぞれをロールモデルとして、細部にわたる知識を得る。②学内・学外インターンシップで、社会人としての意識と組織の役割・協働を体験的に学ぶ。また、キャリアの方向を明確にする。③電子カルテの導入で学生情報、企業情報を一元化し、キャリアカウンセラー、教職員による緻密なキャリア相談に応じる。

これにより、業界や職種によるコンピテンシーの習得を目指し、高い就業力へとつなげる試みである。

研究発表「大学・短大と専門学校のボーダレス化についての一考察」

奥村 幸夫 (愛知産業大学短期大学)



景気はバブル崩壊後、低迷を続け2007年には金融恐慌となった。2003年専門学校(ピーク時)に約70万人在籍していたことを考えるとその存在は無視できない。専門学校は卒業時に専門士を取得できるが、これが1994年大学3年次編入学資格となった。2005年は2,319人が編入学した。一方大学を卒業して専門学校に再び入学する学生も18,531人に及んだ。(2006年学校基本調査)あえて言うならば「専門学校は就職させるところ、大学は研究するところ」というすみ分けができにくくなってきたのである。本学は通信教育部のみの短期大学であるが、その両方の学生が在籍している。いわゆるダブルスクールの学生である。このボーダレス化は今後も減る

ことはないだろう。したがってお互いの高等教育機関が社会のニーズ、学生のニーズに対応したカリキュラムの整備と教育の多様化の中で、いかにアドミッションポリシーを作り上げるべきか。また大学・短大と専門学校の相乗効果にも期待したい。

研究発表「大学・短期大学における企業倫理教育の確立へ向けた予備的考察」

矢口 義教 (富山短期大学)



本研究では、日本の高等教育機関における企業倫理教育に関する報告をした。また、本研究は、具体的に望ましい企業倫理教育の在り様について提言するものではなく、今後そのようなことを行っていくための予備的な考察と位置づけた。

まず、企業倫理の定義について述べ、その後、企業倫理、CSR、コーポレート・ガバナンスの三者間の関係性についてまとめて、企業倫理そのものの概念を整理した。ついで、大学・短期大学における企業倫理教育の意義を考えるために、企業不祥事に従業員が大きく関与することを構造や組織人格といった点に求め、正しい企業観・倫理観を教授することが企業不祥事の予防だけでなく、学生個々人のキャリアパスに

とっても必要であることを指摘した。そして、日本の大学・短期大学における企業倫理教育の状況調査より、日本のビジネス系高等教育機関においても、徐々にではあるが、企業倫理教育が普及しつつあることを指摘した。

研究発表「携帯メール利用によるネットワークとその応用」

國田 千恵子 (金沢学院短期大学)、田畑 圭介 (金沢学院短期大学)、小林 淳一 (金沢学院短期大学)



学生が日常的に利用している携帯メールを使って教員学生間のネットワーク作りを行い、学生生活の充実に寄与できるよういくつかの試みを行っている。一つは携帯メールを通じた事務連絡と学生教員間の質問・相談のやりとりである。これまで学生への伝達手段として掲示が通例であったが、掲示を見なかったり、見ても反応しなかったりする学生が目につき対応に苦慮することがあった。こうした事例に対し、友人からの携帯メールに返信しなければいけないという心理と連絡メールに対応しなければいけないという心理を重ね合わせることで事務連絡に迅速に対応させる試みを行っている。二つ目は携帯メールを使った学生の就職活動支援である。内定者の体験談を学生に配

信し、学生の目線に立った情報を有効に活用してもらっている。内定者に質問したい場合には担当教員を経由して質問事項を内定者に送り、返答内容を全学生に送信し学生目線の情報を共有してもらっている。